

Q Zoom Up

環境に優しい生活を

家庭でできる生ごみ減量

2021年度、市環境センターで処理したごみは約5万1000トで、68%は家庭から出されました。中には、まだ食べられるのに捨てられてしまった食品も含まれています。計画的な食材の購入や適切な分別など、家庭でできるごみ減量に取り組みましょう。

家庭から出された燃えるごみは、市環境センターで焼却されています。ごみを燃やすと二酸化炭素などの温室効果ガスが発生し、地球温暖化につながります。昨年度の一人当たりのごみの排出量は155^{キロ}。年々減少傾向ですが、焼却量を減らし温暖化を防ぐには、さらなる取り組みが必要です。

生ごみを減らす工夫を

昨年度、家庭から出された燃えるごみの47%は生ごみで、そのうち半分が



厚木キエーロは夏場なら数日で生ごみが分解できる

食べられるのに捨てられた「食品ロス」です。食事の食べ残しが最も多く、他にも未開封のレトルト食品や全く手をつけていない野菜・肉などの食材もありました。

生ごみを減らすには、使い切れる量の食材を買い、残さず食べる「使い切り・食べ切り」が大切です。さらに、生ごみの8割を占める水分を減らす「水切り」も減量に効果的です（下欄参照）。また、すぐに食べる食品は陳列棚の手前にある賞味期限の短い物を選ぶ「手前取り」も食品ロスを減らす

手段の一つです。

生ごみ処理機の購入費を補助

市では、生ごみの減量化・資源化を目指し、処理機の購入費用を補助しています（右下欄参照）。土の中のバクテリアが生ごみを分解・消滅させる処理機「厚木キエーロ」を使う高橋沙耶香さん（37宮の里）は「ごみの量が減り、捨てるときに軽くて楽になった。子どもも、生ごみが分解されるのを楽しんでいて勉強になっている」と話します。

環境に優しい生活を

適切な量の食材を買い、食べ残しなどを減らすことは、ごみの焼却量が減り環境への負荷が軽減することに加え、家計の支出も抑えられます。市では、家庭のごみ減量だけでなく企業から出る生ごみの資源化をするため、市が回収してリサイクル施設に運ぶ取り組みも進めています。

ごみの減量には、市や企業、市民の皆さんなど、みんなでできることに取り組みることが大切です。一人一人が小さなことにも目を向け、環境に優しい生活を取り入れましょう。

環境事業課 ☎225-2793

燃えるごみを減らす工夫を

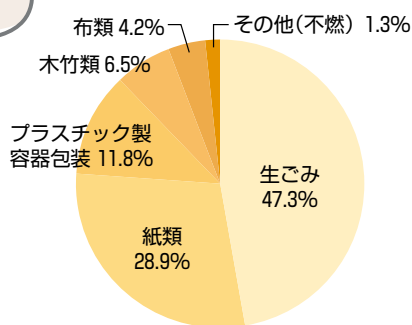
■きちんと分別

紙類やプラスチック製容器包装、木の枝、落ち葉、雑草は資源です。燃えるごみで出さないように注意

■使い切り・食べ切り・水切り

食材は使い切れる量を購入し、料理は食べ切れる量を作る。生ごみはごみ袋に入れる前の水切りを忘れずに

市内の家庭から出された燃えるごみの内訳（2021年）



詳しいごみの出し方はこちら▶



水分量を減らして生ごみ削減

生ごみ処理機の購入費を補助

生ごみの排出量を減らすため、処理機の購入費用の一部を補助します。

■個人

《対象》市内に住民登録があり居住中で、居住地に設置して適切に維持管理できる方

《対象処理機》家庭用生ごみ処理機（ディスポーザーは除く）

《補助額》上限2万円（本体価格の5分の4）※1世帯2台まで

■事業者

《対象》市内に事業所を有する事業者または1年以上市内に居住し事業を営む個人（市税の滞納がある場合を除く）

《対象処理機》1日に10^{キロ}以上の処理能力がある生ごみ処理機

《補助額》上限200万円（設置費用の3分の2）※1事業所1台まで



☎購入後、1カ月以内に環境事業課や環境政策課、市HPにある申請書を、直接または郵送で〒243-8511環境事業課へ。随時受け付け。

個人向けの詳細はこちら▶



事業者向けの詳細はこちら▶



☎設置前に直接、環境事業課へ。

環境事業課 ☎225-2793

参加者募集

リサイクル体験学習

使用済みの古紙で手すきハガキを作って、リサイクルを学んでみませんか。

日時 8月22日 10時～11時30分

場所 あつぎ市民交流プラザ

内容 手すきハガキ作りの体験

対象 市内在住の小学3～6年生24人（保護者同伴可）



☎8月12日までに環境事業課へ。抽選。

環境事業課 ☎225-2793